



こんにちは!!



やまがたむら 議会 です

特集

多様化する子どもの居場所

発行：長野県山形村議会（代表）百瀬 章 編集：議会広報編集特別委員会

山形村ホームページ <https://www.vill.yamagata.nagano.jp/>

TEL.0263-98-3111



令和4年度一般会計決算

41億6千902万円（1億3千850万円の黒字）

9人が村政を質す！ YouTubeにて公開中

◎百瀬 昇一

- ・子どもの遊び道具の選定基準と管理は
- ・消防団の現状と今後の対応及び消防施設の管理状況は

◎竹野入恒夫

- ・村有施設ネーミングライツの募集を
- ・村道の路肩に生い茂っている雑草の管理は

◎春日 仁

- ・子どもの居場所事業について
- ・長野県と沖縄県との交流連携について

◎上條 倫司

- ・村民の健康は守られているか
- ・第39回夏祭り山形じゃんずらについて

◎三澤 一男

- ・デジタル化に対応した効率的な行政運営は
- ・在宅高齢者・障がいのある方への熱中症対策助成は

◎大月 民夫

- ・「複合口施設」建設資金の概要について
- ・広報等情報発信手段の新たな取り組みは

◎大池 俊子

- ・介護予防事業を活用した地域づくりを
- ・村のサイレンの継続を

◎小出 敏裕

- ・第9期介護保険事業計画策定に向けて
- ・里山の環境整備を

◎小林 幸司

- ・村道の中でも農道の安全対策は
- ・消防団員の働き方改革を

募集!! 議会モニター

9月30日現在、議会モニターは4名が委嘱されています。定員は15名なので、率直な声を議会活動に反映するため、多くの方の応募をお待ちしています。



令和5年 第3回山形村議会定例会

令和5年 第3回山形村議会定例会が9月5日開会し、19日まで15日間開催された。
 令和4年度決算認定など（陳情1件、請願2件、報告1件、承認1件、諮問1件、認定7件、令和5年度補正予算など議案7件）を審議し、全議案を可決した。
 一般質問は7日と8日の両日、9人が登壇し村政全般について質問を行なった。
 議案の審査については、討論があった事案を中心に次のとおり報告する。

主な議案の審議結果

	議案・討議内容	結果
陳情第1号	「健康保険証」の存続に関する意見書の提出を求める陳情書 マイナンバーカードに紐付けられる「健康保険証」は、未だ多くの問題があり十分な説明がされていない。従って、時間をかけて取り組むべきものとする。	可決
承認第5号	令和5年度山形村一般会計補正予算（第3号）の専決処分承認を定めることについて ※歳入歳出総額に2千332万7千円を追加し、総額を38億6千468万5千円とするもの 新型コロナウイルスワクチン接種費 2千173万1千円など	可決
認定第1号	令和4年度山形村一般会計歳入歳出決算認定について 監査委員から、会計管理者等はチェック体制強化を図り意識改革を進めるよう指摘された。	賛成多数
	【認定第1号の賛成討論】 大月 民夫議員 会計管理者の職務に対し、村民に求められる期待感に応えられる体制は、如何にあるべきかの徹底した議論が望まれます。独立性や専門性を高め、チェック体制の強化を図る見直しを審査意見として申し添えて、賛成討論といたします。	
認定第2号	令和4年度山形村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について 監査委員から、支払準備基金繰入金収入が、出納閉鎖後の6月1日に事務処理されているとの指摘を受けた。	賛成多数
	【認定第2号の反対討論】 小林 幸司議員 国民健康保険特別会計で事務処理が、出納閉鎖後に行なわれていたと監査委員から指摘がありました。所管課・会計管理者等は財務事務を適法かつ正確に行なうよう求められています。このことから、専任の会計管理者を置くことが必要だと考え、認定第2号の反対討論とします。	
議案第40号	令和5年度山形村一般会計補正予算（第4号） ※歳入歳出総額に1億310万5千円を追加し、総額を39億6千779万円とするもの 詳細については、別添のとおり	可決
議案第41号	令和5年度山形村国民健康保険特別会計補正予算（第1号） ※歳入歳出総額に836万5千円を追加し、総額を10億5千817万9千円とするもの 特定健診受診率向上事業委託料等を563万8千円減額、支払準備基金積立に335万円	可決
議案第43号	令和5年度山形村介護保険特別会計補正予算（第2号） ※歳入歳出総額に6千181万3千円を追加し、総額を7億5千165万円とするもの 介護保険支払準備基金積立金2千263万2千円他	可決
議案第44号	令和5年度山形村水道事業会計補正予算（第2号） ※消火栓移設工事費・その他修繕工事費の増額200万円、消火栓取り付け工事費の増額62万1千円	可決
議案第45号	令和5年度山形村清水高原簡易水道事業会計補正予算（第2号） ※落雷による、高区配水池テレメーター装置機器破損に伴う取替工事	賛成多数
	【議案第45号の反対討論】 大池 俊子議員 今回の補正予算は、落雷による高区配水池テレメーター装置機器破損に伴う取替工事99万円である。当初予算には、火災保険料1万6千円が計上されているが、保険が効かなかったのか、しっかり調査した上で補正予算にすべきと思われ本補正には反対です。	

その他の可決した議案ほか

請願（2件）、諮問（人権擁護委員候補者の推薦について）、令和4年度決算認定（認定第3号～第7号）、令和4年度水道事業会計剰余金の処分、令和5年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）、令和4年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告、山形村選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙について

令和5年度山形村一般会計補正予算（第4号）の主な事業

林業振興費	松くい虫被害対策緊急伐倒処理工事 96万8千円	
道路維持費	道路舗装補修整備等工事 88万円、村道環境整備工事 50万円	
工事請負費	総事業費284万8千円	
林道構造改良費	林道等維持管理工事 50万円	
補償、補填、賠償金	道路新設改良費 1千838万6千円	
事業費	村道1級4号線歩道工事	
子育て世帯生活支援特別給付金	道路新設改良、舗装新設事業補償費	
総事業費330万円	子育て世帯生活支援特別給付金（その他分） 180万円	
価格高騰特別対策支援金	子育て世帯生活支援特別給付金（低所得者分） 150万円	
総事業費470万円	長野県価格高騰特別対策支援事業 440万円	
	令和5年度分「住民税所得割非課税世帯」1世帯当たり2万円を支給するもの	
	価格高騰緊急支援事業（家計急変分） 30万円	
	令和5年1月以降、予期せず収入が減少し「住民税所得割非課税」となった世帯に支援金（1世帯3万円）を支給するもの	

一般質問

議員9人が村政を問う

一般質問は9月7日、8日に議員9人が登壇、質問時間は60分として、村政について質問を行なった。

消防栓・屋外消火栓格納庫の更新は 消防施設などは、計画的に交換していく



百瀬昇一 議員

Q 消防団員の定数と現在の人数は。

A 条例定数は183名、8月31日現在は171名となっている。

Q 消防団員の勧誘策・支援策は。

A 勧誘は各分団で行なっている。苦慮しているのが現状だ。分団によっては、退団者が再入団という例もある。

Q 今、地域コミュニティの希薄化などの中、これといった勧誘策は無いのが現状だ。支援策は今後検討する。

Q 子育て支援・保育園事業で、子どもの遊び道具の選定基準と管理は。

A 子どもの年齢に合ったものや興味を持てるもの、素材や形など、子どもが安心・安全に遊べるものなどに留意して選定をしている。

管理については、大きな遊具は定期的に自己点検および専門業者による精密点検を実施している。



村内消火栓

Q 小学校の、子どもの遊び道具選定基準と管理は。

A 小学校では教材の位置付けであり、文部科学省策定の「教材整備指針」により教科別に整備している。

Q 地域の公園などの遊具等の選定と管理は。

A 地域の実情の中で選定している。管理は定期的自己点検および専門業者による精密点検を実施している。

児童館の手狭な状態は解消されているか 手狭な状態の解消には至っていない



春日 仁 議員

Q 今年度の放課後児童クラブならびに第三の居場所事業の現状は。

A 児童クラブの利用状況は、放課後利用でおよそ110人から120人、長期休み利用で100人であり、手狭な状態は解消していない。

また、放課後児童クラブの登録数は166人、第三の居場所の登録児童数は23人。

Q 民間の事業所(放課後等デイサービス)とは、どのように繋いでいるのか。

A 放課後等デイサービスを利用する場合、は、子育て支援課に相談し、子育て支援課担当職員が受け入れ可能施設を何カ所か相談者に示している。また、保護者・子どもと一緒に、子育て支援課担当者が当該施設を見学し、施設の状況を確認している。こうした見学を重ね、保護者が子どもにとってふさわしい施設を自ら選択している。

Q 児童館・第三の居場所などの受付窓口を1カ所にできないか。

A 事業内容や、事業実施場所も違うため現状では困難であると考えている。

その他、長野県と縄県との交流連携について質問した。



ふれあい児童館

村民の健康は守られているか 長9年間の特定健診受診率は低調である



上條 倫司 議員

Q ここ10年間の特定健診の受診率は。

A 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で健康スクリーニングを中止した。令和2年度を除く9年間の平均受診率は、37・6%である。最高は、令和元年度の41・5%、最低は、平成30年度の35・2%となっている。

Q 第6次総合計画では、「施策1 健康長寿のまちづくり」「施策2 共に支え合う地域社会づくり」「施策3 高齢者福祉

の充実」があるが、今年度は何を行なうのか。

A 「施策1」特定健診受診率向上に向け、健診の実施時期や時間、実施方法の検討を進め、検診申込票の未提出者への受診奨励に力を入れている。

「施策2」では、社会福祉協議会や村の福祉事業へ協力している事業所、新体制になった民生児童委員の協力のもと、きめ細かい見守りやサービスを提供している。

「施策3」及び「施策4 障がい者福祉の充実」においては、事業推進の羅針盤となる「高齢者福祉計画」と「障がい者計画」が今年度で終了するので、来年度以降の計画策定作業を進めている。

Q 健康づくり推進員を廃止して良かったこと、悪かったことは。

A 良かったことは、連絡班から選出される役員が減り、住民の負担が減少した。悪かったことは、今のところないが、今後も住民の健康意識を高める働きかけを行なっていく。

その他、山形じやんずらについて質問した。



聴診器と血圧計

Q 多くの住民に親しまれ、意義深い拠点になるよう特に注力していく事項は。

A 大勢の住民が集い、学びと交流を通じ、そこから新たな価値を生み出していく拠点施設になるように、ハード面・ソフト面の充実を図っていきたい。

その他、広報等情報発信手段の新たな取り組み推進に向かつてを質問した。



山形村図書館

Q 公共施設整備基金の活用計画は。

A 今後、財源等が明らかになった時点で、整備年度に要する一般財源の額や、償還に係る負担額など、後年度の財政運営全般に与える影響を総合的に考慮し、基金活用の在り方を示していきたい。

Q 地方債の活用計画の方針は。

A 「まち・ひと・しごと創生交付金事業」や「地域活性化事業」等を視野に入れ、整備内容によっては活用できる起債事業も検討していく。

「複合施設」建設に向けて 大勢の住民が集い、学びと交流の拠点施設に



大月 民夫 議員

Q 複合施設は「文化の薫り高い村づくり」の活力が漲る施設として、オープンを心待ちにしている。国や県より

「補助金」や「交付金」の歳入見込みは。

A 現時点では、特定できないが、環境省の建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業や、内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金等を検討していきたい。

第9期介護保険事業計画策定に向けて
村長 アンケート調査や高齢者福祉の実状などを考慮し策定する



小出敏裕 議員

Q 第9期介護保険事業計画の基本指針は、

A 国が示した基本指針の大きな柱は、①

介護サービス基盤の計画的な整備②地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取り組み③地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び介護現場の生産性向上の3点である。

Q 第9期介護保険事業計画策定の進め方は、

A 高齢者等実態アンケートを昨年実施した。アンケートのデータ分析と基本指針に沿う形で、山形村の施策を織り交ぜながら策定を進める。

Q P D C Aサイクルを活用し、課題分析を行なった事例はあるか。

A 課題やミスマッチが生じた場合は、課内で現状を評価し改善を行なっている。本年度の被保険者数、要介護・要支援者数、居宅サービスの利用率は、

A 被保険者数は2千487名、要介護・要支援者数は321名、居宅サービス利用率は69・8%。

Q 第9期介護保険料の見込みは、

A 現時点で具体的な保険料は決まっていないが、様々な要素を分析し長期的な見通しも考慮しながら、第9期3年間の適正な保険料を算定したい。

Q 地域密着型サービスをどのように考えるか。

A 村内の地域密着型サービスは閉所となっている。地

域密着型サービスは、村内が理想であるが、近隣市村を含めた生活圏内が現状である。

その他、里山の環境整備を質問した。



保健福祉センター

村有施設ネーミングライツ(命名権)の募集を
村長 今後の可能性を見極める

Q 村の新たな財源確保と企業PRの場

として、村有施設のネーミングライツの募集がでないか。施設をより良い環境で維持していくには経費がかかる。民間の協力を得られれば、予算が助かる。ネーミングライツによって企業が得られるメリットは「地域貢献によるイメージアップが期待



竹野入恒夫 議員

できる」「高い宣伝効果を得ることができるといふ2つが挙げられる。次に挙げる施設はどう考えるか。

- 1 農業者トレーニングセンター
- 2 ミラ・フード館
- 3 ふれあいドーム
- 4 いちいの里
- 5 山形農村情報センターエポック館

A ネーミングライツは、施設の名称に企業名や商品名を冠した愛称を付与させる代わりに、企業等から対価を負担して、施設の運営維持と利用者のサービス向上を図るものである。一般論として、大都市圏以外では応募企業が少なく、企業や商品名が目立ち、施設の機能が分かりにくくなるのが心配だ。村の予算は限られており、ネーミングライツに限らず、地域の活性化のために企業と連携し、村も企業もお互いにメリットのある施策を展開することが重要だ。それぞれの施設のネーミングライツについては、村内外の企業がどのような評価をしているか、今後の可能性について見極めていく。

その他、村道の路肩に生い茂っている雑草の管理について質問した。



農業者トレーニングセンター

デジタル化に対応した行政運営は

村長 村民の生活が便利で快適になるよう取り組んでいる



三澤一男 議員

Q 村の公式LINE登録数は、また村からの発信内容についてどのように考えているか。

A DX推進の一環として公式LINEを導入し、現在の登録者は千500人を越えている。発信内容は防災情報、ごみ収集日、健診等の生活情報、イベント情報、妊娠期から3歳児までの子育て世代への情報を定期的に提供するきずなメールとなっている。配信する情報は公式情報のみとして、情報の信頼性を確保している。また、情報の配信だけでなく、道路・河川の破損や、有害鳥獣の出没、不法投棄等に関する村民からの通報受付の機能も備えており、村民と村の双方向な情報伝達の有効ツールとして活用したい。

Q 生成AI等の導入の考えは。

A チャットGPTに代表される生成AIは、政府・自治体でも活用しようという動きは広まっている。行政で取り扱う機会が多い個人情報を含んだ、情報流出をどのように担保するかも重要な課題である。行政事務の遂行には有効な手段と思うが、慎重な判断が求められる。

その他、在宅高齢者・障がい者へ熱中症対策補助を、屋敷林等の管理に補助はなど質問した。



LINE画面

村サイレンの継続を

村長 村民の意見を聞きながら決めたい



大池俊子 議員

Q 7月の議会全員協議会で、村は午前11時半と午後5時のサイレンを、継続するか取りやめるかを検討していると報告した。どのような手段で、いつ頃方向性を出すのか。

A 賛否両論ある課題であり、区長会、農業委員会などで話題にしている。

Q 昭和28年から続くサイレンは、70年も身体に染みこんでいて生活の中において、山形村の基幹産業である農業を支えてきた。中止された朝6時のサイレンは、朝食に戻るサインであり、11時半は「そろそろお昼だよ」、夕方5時は、農家は仕事の目途を付け

ポンプ操法ラッパ吹奏大会への出場の是非は

村長 今後分団長会議にて協議して検討していきたい



小林幸司 議員

Q 現在、消防団員の務めている。様々な職種についているため消防団活動にも支障をきたしているのが現状である。その中でポンプ操法やラッパ吹奏大会に向け、1カ月半ほどの練習にも全員が集まれないという時代だ。長年続いていた大会自体は、全国的にも疑問の声が上がっている。消防団員の負担を軽減していくことが重要だが、どの

ように考えるか。

る、子どもたちは遊びから帰る時を告げるサイレンと役目は大きい。村民にとっては、生活の一部であり、村の文化や象徴として続けるべきと思うが、どう考えるか。

A 騒音と感ずる地域は、役場から500m程度で、1.2km離れた場所では、山形村の昔からの風物詩であり、心地の良い音だと感じる人も多い。区長会や農業委員会、行政懇談会などで話題にし、村民の意見を聞きながら決めたいと思う。

村のサイレン (通称ボー)



その他、介護予防事業を活用した地域づくりについて質問した。

A 様々な災害に向けて村民の生命・財産を守るため極めて重要な役割を担っていることに、改めて敬意を表し感謝している。自助・共助、地域の力を発揮し、地域の誇りと一体感を高め、地域コミュニティの一端を担っていただいている。今後の活動内容は各分団や本部としても検討していく。

その他、村道の中でも農道の交通安全対策について質問した。



消防団訓練

常任委員会報告

合同視察を行ないました！！



7月14日、総務産業常任委員会は、村道1級8号線（下竹田三夜塚）の浸透柵撤去・設置工事の視察を行なった。大雨の度に雨水が溢れ出し、地域住民に多大な不便を与えていたもので、工事により改善されるものと大いに期待をしている。

7月11日、福祉文教常任委員会は、山形保育園と子育て支援センター「すくすく」を視察した。保育園では現状と課題を、すくすくでは事業報告および成果と課題を聞いた。保育園では園児の主体性を重要視するとの話があり、今までは違う保育方針に驚かされた一方、それ故に保育士不足が大きな課題と聞き、今後の運営が心配になった。

月が変わり8月17日、議会全員協議会・議会改革推進検討特別委員会終了後、総務産業常任委員会と福祉文教常任委員会は合同の視察を行なった。山形村でも少子高齢化は避けて通れない、喫緊の対策が必要な課題である。企画振興課では、おためし住宅（村上邸）が好評で需要が多い反面、腰を据えて長期間滞在できる第2のおためし住宅開設を目指し、旧教員住宅に白羽の矢を立て急ピッチでリフォームに取り組んでいる。

そこで、両常任委員会も補正予算の審査だけで終わりではなく、現状と課題を村と共有し、これからの村づくりを共に進めることを目的として現地視察を行なった。

改修工期は本年の12月、工事費用は約640万円、うち406万円は、県の元気づくり支援金をあて、残りの234万円が村負担となる。リフォーム中にも、いろいろなイベントが企画されており、事業の成功を村民と一緒に願っている。

（小出 敏裕）



議会日誌

《7月》

- 2日 やまのこ保育園20周年記念式典
- 11日 福祉文教常任委員会 山形保育園・すくすく視察
- 13日 議会広報編集特別委員会
- 14日 総務産業常任委員会 三夜塚排水工事視察
- 19日 町村議会議員研修会 キッセイ文化ホール
- 19日 議会全員協議会
- 第15回議会改革推進検討特別委員会
- 鉢盛中学校議会7月臨時会
- 福祉文教常任委員会委員

《8月》

- 1日 朝日村・山形村議員交流会
- 17日 議会全員協議会
- 第16回議会改革推進検討特別委員会
- 総務産業常任委員会・福祉文教常任委員会合同視察 おためし住宅工事現場
- 23日 東筑摩郡議員大会 朝日村中央公民館
- 29日 議会運営委員会

《9月》

- 3日 山形村総合防災訓練
- 5日 令和5年第3回山形村議会定例会開会
- 7・8日 一般質問
- 11日 議会全員協議会（決算説明・質疑①）
- 12日 議会全員協議会（決算説明・質疑②）
- 13日 総務産業常任委員会
- 14日 福祉文教常任委員会
- 19日 議会広報編集特別委員会
- 令和5年第3回山形村議会定例会閉会
- 議会全員協議会
- 26・27日 山形保育園運動会
- 26日 議会広報編集特別委員会



秋の実り

特集

多様化する 子どもの居場所



やんちゃkids 東筑山形

児童発達支援／放課後等デイサービス多機能事業所です。

主に発達障害やその可能性のある未就学児～18歳までの子どもさんの療育を行なっています。「子どもたちが将来社会に出たときに自分に自信を持って生きていけるように」私たちはひとりひとりの子どもの個性を尊重し大切にしていきます。

子どもたちは「愛されている」「大切にされている」「認めてもらえている」という思いを感じて、はじめて大人に信頼を寄せます。大好きな人となら苦手なことも頑張れる、そしてひとつずつ「できた！」を増やし自信につなげていく支援を、さまざまな療育を通して実現させていきたいと考えています。

そのためには「やんちゃkids」が子どもたちにとって、「ワクワクドキドキ」がたくさん詰まった、楽しい場所であり続ける努力と工夫を重ねていきます。

子どもたちはやがて私たち大人の手を離れていきます。そのときに、少しでも安心して手放すことができるように成長してもらいたいと思っています。

やんちゃkids 東筑山形管理者

村林 淳一郎



庭ではタテハチョウやシジミチョウが

玄関で子どもたちの
すてきな作品がお出迎え



問合せ先

住所：東筑摩郡山形村5059番地1

電話：0263-88-8912

Mail：yamagata@yanchakids.com

やんちゃkids 東筑山形の管理者、村林淳一郎さんからお話を伺いました。ブッソールってフランス語で「羅針盤」のことだそうです。皆さん、知っていましたか？ひとつ、利口になりましたね。余談は置いて本題に入ります。今年の春先にオープンしたので、少し順調になったのかな？山形村に決めた理由を聞くと、山形村は排他的ではなく、皆が協力してくれる。それには、松本西部の梓川や朝日などには同様の施設がなく、開設にはちょうど良い場所があったとのことでした。実際に、朝日村・松本市波田などから通ってくる子どもたちが多いそうです。しかし、山形村の子どもは少ないので、今後は山形村に力を入れないとのことでした。

山形村には、B&G財団の援助による第三の居場所づくりや放課後デイサービスがあるので、お互いに話し合いをしながら、子どもたちにとって「居心地の良い場所」にして欲しい。そして、末永く山形村に根付いた施設として発展して欲しいと思いました。

(大池 俊子)

私の一言

山形村での活動を振り返って

赤堀早紀さん（上竹田）



4年ぶりの開催となった夏祭り山形じゃんずら。私は、若者ワーキンググループ「じゃんずらプロジェクト」の一員として、プレイベントの企画に携わりました。どうすれば参加したいと思ってもらえるのか、メンバーと試行錯誤する中で学んだのは、自分たちが楽しむことの大切さです。自分ならどんなプレイベントに参加したいか、当事者意識を持って考え、率先して楽しむ姿を見せることで、賛同してくれる人が多くいました。若者ワーキンググループの枠を超え、村民同士の新たな交流が生まれていったと思います。

山形村複合施設ワークショップにおいても、これと似た経験をしました。ワークショップでは、誰もが利用しやすい施設の実現に向け、参加者がそれぞれの立場から思いを語り合います。自分自身が利用する施設をつくっているという意識から活発に意見が出され、それらを共有することで村民のための施設像ができていきました。地域のつながりが希薄化しているからこそ、一人ひとりの思いを集めてみんなの思いにする、そんな意見交換の場が必要だと感じます。

山形村空き家バンクの活用

幸地慶さん（地域おこし協力隊員）



私は地域おこし協力隊の活動で、主に山形村空き家バンクの運営に携わらせていただいております。活動の一環で、村内の空き家調査や空き家の相談窓口等を行なっている中で、村内では約100軒以上の空き家があることを知りました。一方で、空き家バンクへの登録物件は現状、多いとは言えない状況です。では、村内の空き家が、一般不動産市場に売買物件や賃貸物件として浮上しているのか？という疑問が思いつきますが、ネットの不動産状況を確認する限り、そうでもないようです。

空き家は放置すると、獣の巣化や倒壊の危険、固定資産税の支払等々、ネガティブな面が多くあります。また、来令和6年4月からは相続登記義務化の法律も施行され、所有する空き家を見直す機会が増すと思われるかもしれません。もしも、空き家で困っていることがありましたら、山形村空き家バンクの活用をご検討ください。バンク登録のメリットは、①村と提携している宅建業者が仲介を行なう。②改修や片付けに補助金を利用できることです。バンク登録以前に「空き家をどうにかしたいが、何をしたら良いか分からない」等のご相談でも大丈夫です。役場の企画振興課にてご相談を承ります。



秋の清水高原

秋

旬の味

秋は来るのかな？と困惑してしまうほど、異常なまでの暑さと、雨の降らない日々が続きました。この時季になるとキノコ、特に松茸が旬の味として、真っ先に浮かんできます。

一般的に、地温が15〜19℃で、7〜8月に雨が比較的多いことが、キノコの生える条件だといわれていますので、今年は近年にない不作のようです。それでも心待ちにしていきましたが、いつもの山の幸は、遠い存在になってしまいました。

温暖化などのさまざまな要因で、私たちの大切な地球は、もがき始めたのでしょうか。旬を感じられないことは、少々我慢するとしても、大きな自然災害は、起こらないでほしいと祈るばかりです。



（百瀬 章）



発行責任者 議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 百瀬 章 |
| 委員 | 小出 敏裕 |
| 副委員長 | 大池 俊子 |
| 委員 | 竹野入恒夫 |
| 委員 | 百瀬 章 |
| 委員 | 百瀬 昇一 |
| 委員 | 三澤 一男 |